

浅川地区住民自治協議会だより



せせらぎ

みんなで創る 元気な浅川！

第 108 号

発行日 令和 8 年 1 月 31 日

発行人 小 林 克 巳

TEL・FAX 026-244-5165

新しい年を迎えて (備えを忘れずに)



浅川地区住民自治協議会 会長 小 林 克 巳

あけましておめでとうございます。皆様お健やかに新年をお迎えされたこととお慶び申し上げます。

昨年は、気象の変化により全国で猛暑の影響などで熱中症、お米の高騰、物価高さらに、山のどんぐり等の餌が不作で熊の出没による被害が、山間部だけでなく市街地にも及び、日常生活の安全が脅かされました。

そのような中、浅川地区におきましては、住民自治協議会の各種団体の事業活動も皆様方のご支援ご協力により、ほぼ予定通りに活動ができましたこと深く感謝申し上げます。

また、昨年12月の寒い冬季とはなりましたが、浅川地区防災訓練を震度5強の地震を想定して実施させていただきました。予定されていましたが地震体験はできませんでしたが、情報伝達・避難・炊き出し訓練は、迅速かつスムーズな訓練ができたと感じております。また、AR煙・消火の疑似体験、AED操作訓練さらに、2024年(令和6年)1月1日に発生した能登半島地震(最大震度7)の被災者と珠洲市からオンラインによる講演も開催できました。講演では珠洲市の野々江第2仮設住宅の被災者の方からお話を聞きました。被災直後は、おにぎり1個しか食べられない、水もない、寒さや食事などの心配があり、避難所では、ストーブ、毛布、簡易トイレ、椅子などが足りないなどの状況や被災し感じておられることをお聞きすることができました。仮設住宅で大変な中、本当に有難うございました。NHK朝ドラの「おむすび」の一場面を思い浮かべました。被災者の生の声をお聴きし、私たちも教訓として日頃の防災に役立てていかなければいけないと思いました。被災地の復興もまだまだとのことでした。これから寒さも増しますが御自愛され、一刻も早く元の生活が取り戻せますよう願っています。

防災訓練2日後の12月8日には、青森県八戸市で震度6強の地震が発生しました。その後も地震が続いており、北海道三陸沖後発地震注意情報が初めて発せられるなど警戒が続いております。

浅川地区におきましては、幸いに今のところ大きな災害に見舞われることがありませんが、日頃の備え、心構えをしっかりとしておくことが大切です。

地域の安全・安心を保っていくには、皆様お一人おひとりが「自助、互助、共助、公助」の精神で、みんなでささえ愛・たすけ愛～共に支え合える浅川地区を目指していくことだと思います。

世界は、気候変動や紛争など国内情勢の変化にもより、自分ひとりでは、どうしようもないことが、いつ起きるか分からないような日常になってきています。

令和7年度も残り3か月となりましたが、地域の皆様の安全、安心のため、住民自治協議会として、一生懸命取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、この午年が皆様にとってそれぞれに良い年となりますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



【冬のブランド薬師】

浅川地区防災訓練行われる～浅川地区災害対策本部～

12月6日（土）浅川地区防災訓練が行われ、80名余が参加しました。各区長（自主防災会長）は電話で支所に被災状況第1報を伝え避難を開始、8時には災害対策本部を立ち上げ、避難してきた各区からの被災情報（第2報）を情報班に集める情報伝達訓練を行いました。

今年の訓練は予定していた地震体験車が故障で来られなくなったため、急遽AED訓練を加えてAR（拡張現実）による疑似消火・煙体験訓練を2班に分かれて実施した後、参加者全員が大会議室に集合し講演会を行いました。

講演会では能登半島地震の被災地珠洲市の仮設住宅とオンライン（ZOOM）で繋いで野之江第2仮設住宅代表の従二恵二さんによる「能登半島地震の被災者として感じていること伝えたいこと」のお話をお聞きしました。

1月の発災以降の真冬の避難所から仮設住宅での過酷な生活の中での苦労や人々の支え合いが身に痛むほどに実感されました。併行して救急救護班が炊き出し訓練を行い、訓練の最後に麵つゆで味付けした炊き出し米が参加者に配られました。

浅川地区では幸いにして地区全体にわたる大きな災害が少なく、4年前の台風19号災害や平成26年の神城断層地震による被害の記憶も薄れつつある中で、12月8日には青森県東方沖での震度6強の地震が発生し後発地震注意情報が発令されるなど、日常的な災害の発生の可能性について改めて普段からの心構えと準備が必要だと感じさせられました。



【訓練開始式】



【避難した区から被害状況伝達】



【AEDによる救急救護訓練】



【AR（拡張現実）による消火訓練（左）と煙体験訓練（右）】



【炊き出し訓練～お米を専用の袋（ハイゼックス）に詰めて、防災用釜で茹でた炊き出し米を参加者に配布しました】



【能登半島珠洲市の仮設住宅を結んでのお話（コーディネーターは寺澤顧問）】



【講師の従二恵二さん】

民生委員・児童委員の新体制 12月よりスタート！



【民生委員】 * () は担当地区

【会 長】 知久 莊治 (西条)

【副会長】 杉森 京子 (浅川団地)

【会 計】 竹元 邦子 (西条)

【委 員】 石坂 裕子 (東条・真光寺)、山岸 隆彦 (畑山・門沢・中曽根・大池南)、松木 栄 (北郷・三ツ出)、竹村 正明 (清水・台ヶ窪・坂中・福岡)、小林 栄子 (伺去・西平)、竹井 悦子 (押田)、武前 博喜 (西条)、中島 角三 (浅川団地)、白石 直人 (屋敷田)、畠山 正一 (神楽橋)、青木 美智子 (神楽橋)

【主任児童委員】 佐藤 はつえ、横山 まゆみ

民生委員・児童委員が令和7年11月に任期が満了となるのに伴い、新しい委員の推薦準備委員会が6月10日に開かれ、各地区から推薦を受けた16名の委員（民生委員14名・主任児童委員2名）が選任されました。11月26日にはホクト文化ホールに於いて厚生労働大臣から委嘱を受け、12月から3年間の活動がスタートしました。

一人暮らしの高齢者や生活に困難を伴うお年寄り、また子供たちの安全・安心のために、日常的な見守り・相談・支援や災害時の支援など民生委員・児童委員の活動は多岐に及び、大切な役割を果たしています。

少子高齢化が急速に進む中で地域における福祉活動に対するニーズが増大する一方、その担い手となる民生委員の選任の困難さは増えています。委員だけでなく隣組等、地域一体となった支え合いや見守り等の対応・協力が必要となってきています。

新しい委員のみなさんの活動に浅川区民のみなさんの理解と協力をお願いします。

(浅川地区民生委員児童委員協議会)

人権啓発現地研修会行われる

～ 稲荷山養護学校、稲荷山医療福祉センター、長野少年鑑別所を訪ねて～

11月12日（金）人権啓発委員会の現地研修が行われ、一般参加者含め18名が参加しました。今回は千曲市の稲荷山養護学校及び稲荷山医療福祉センター、三輪の長野少年鑑別所を視察しました。

稲荷山養護学校では傳田教頭先生から、小学生・中学生・高校生までが「明るく・たくましく・より豊かに」を教育目標として個々のニーズに合わせた教育をしているとの説明、生徒たちはスクールバス、保護者送迎、自力、寄宿舎生活等、いろいろな手段で通学しているそうです。

医療福祉センターでは子供たちが室内トレーニングしている様子等を見学しました。

少年鑑別所では、松本所長から「少年鑑別所は子供版の拘置所ではない、少年たちを審判まで安全に確保し、資質や環境の調査を行い、裁判所に渡す審判資料を整える責任をおっています」との説明がありました。

人権啓発委員会 委員長 鶴 田 修



【稲荷山養護学校】



【稲荷山医療福祉センター】

西条文化祭と保護司会「なかよし交流会」が共同開催される！

11月9日（日）恒例の第46回西条文化祭が保護司会の第9回「なかよし交流会」と共同で開催されました。雨模様の天気の中、役員のみなさんは午前4時ころから準備にあたりました。

今年は公民館に特設ステージが設けられミュージックランドのコーラスや西条ハーモニカ同好会の演奏が行われました。人権同和集会所では作品展示、割りばし鉄砲の射的、スワッグ作り、キャンディレイ作り、しおり作り、備蓄食品クッキングの試食など、また前庭では無料の豚汁がふるまわれ、1本250円の石焼きいもの販売には長い行列ができ即完売しました。



【ミュージックランド(コーラス)】



【ハーモニカ同好会】



【焼き芋に行列！】



【作品展示】



【割りばし鉄砲の射的】



【豚汁に舌鼓！】



【キャンディレイ作り】



【スワッグ作り】



【しおり作り】



【備蓄食クッキング】



坂中直売所が今年の最終日、大勢のお客さんで賑わいました！



【朝7時には駐車場が満車、開店前から行列ができ、開店と同時に売れ切れが続出！】



11月30日（日）、7月から毎週日曜日に坂中区のみなさんが開いてきた農産物直売所が今年最終日を迎えました。野沢菜、大根、ブドウ、長芋、坂中産大豆で作った味噌などが並び、7時には駐車場が満車になりました。霜が降りる冷え込みの中、キノコ汁がふるまわれ抽選会も行われました。



【ストーブを囲んできのこ汁に舌鼓み】



【空くじなしの抽選会】

年末恒例の「しめ縄づくり」(公民館冬季学級)が行われる

12月14日(日)恒例のしめ縄づくりが行われ38名が参加しました。

参加したみなさんはまず用意された藁をすぐり、松を選び、思い思いの場所でしめ縄づくりを始めます。講師は元公民館長の小島高志さん(押田)、斎藤可雄さん(屋敷田)。

最初に藁を紐に縛う説明を受けてから藁に向かいますが、これがなかなか難しい(?!)。初めての方も常連の方も、みなさん新しい年の平安を祈りながら和気あいあいとしめ縄づくりを楽しみました。
(教育文化部会・地区公民館連合会)



【講師の小島さん、斎藤さん】



【みなさん、藁と格闘しています!!!】



長野市9地区合同成人式行われる!

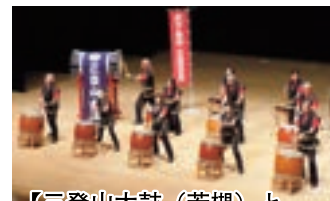


【会場前風景】

1月11日(日)長野市芸術館において9地区(第三・第四・第五・芹田・古牧・三輪・浅川・若槻・小田切)成人式実行委員会主催で“令和7年度 二十歳の門出を祝う成人式”が行われました。今年の新成人は998名(男542名、女456名)、浅川地区では対象者は46名(男23名、女23名)の内、37名(全体661名)が出席しました。

若槻地区の三登山太鼓と芹田地区の芹田木遣り会の演奏で開会、新成人を代表して若槻地区の村社南緒さん、浅川地区の田中大和さんが“誓いのことば”を述べました。

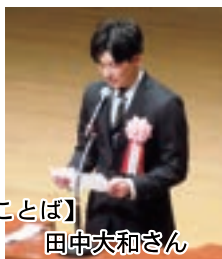
(教育文化部会・地区公民館連合会)



【三登山太鼓(若槻)と
芹田木遣り会で開会】



【誓いのことば】
村社南緒さん



田中大和さん

浅川葡萄農園だより vol. 6

～各所でワインお披露目会!～

12月、いよいよ冬本番となり、厳しい寒さが感じられる季節となりました。ワインの仕込みも終盤を迎え、収穫した葡萄は少しずつワインへと姿を変えています。

11月30日には神楽橋の文化部会主催のワインセミナー、同日夕方には寺沢さゆり市議員主催の会(昨年に続き2回目)で当葡萄園のワインを味わっていただく機会をいただきました。また12月7日には浅川西条公民館主催の「ワインお披露目会」(今年で3年目)を開催していただきました。地元の皆さまにワインやシードルを味わっていただけることは、本当に貴重で有難い機会です。

日頃より支えてくださる皆さまへの感謝を胸に、これからも喜んでいただけるワインづくりに励んでまいります。

今後とも温かいご声援とご支援をどうぞよろしくお願い致します。



【寺沢さゆりさん主催ワイン会】



【神楽橋文化部会ワインセミナー】

浅川の令和7年を振り返って



浅川支所長 小林 弘和

令和7年は、昨年同様に猛暑となりましたが、幸いにも梅雨や台風による影響が少なかったため、穏やかさを感じる日が多く、まちの賑わいづくり活動が活発に行われた一年でした。皆様の記憶に新しい出来事ですので、一緒にこの一年を振り返ってみましょう。

① 公民館のピアノのお披露目リサイタルが開催されました

6月1日（日）、令和6年に若槻小学校から浅川公民館に移管されたグランドピアノのお披露目を兼ねて、伺去区出身で、現在は東京を拠点に音楽活動を展開している小川至さんによるピアノお披露目リサイタルが開催されました。同氏が日頃研究しているフィンランドの作曲家シベリウスをはじめショパンや山田耕筰等が作曲した全10曲が演奏され、素晴らしい演奏に酔いしれたひとときとなりました。



② ながの花と緑大賞2025で受賞しました

6月19日（木）、市民の緑化活動や公園・街路樹の愛護活動を表彰する「ながの花と緑大賞2025」で、浅川河川敷遊歩道周辺の整備をしているボランティア団体である「チーム・フロンティア浅川」の「浅川フジバカマ苑」の環境整備活動が、昨年の「ハナモモ植栽」に続いて、公共緑化の部で2年連続の大賞を受賞しました。さらに、園芸ボランティアグループである「あさかわ花🌸花隊」も、昨年のコミュニケーション賞に続いて、環境・エコロジー賞を受賞しました。浅川住民の緑化活動への意識の高さをアピールする機会となりました。



③ 「浅川ダム近郊名所めぐり」案内板が設置されました

長野市まちづくり活動支援補助金を受けて、浅川まちづくり活動推進委員会で検討を進めてきた「わくわくウォーキング浅川プロジェクト」の第一弾として、「浅川ダム近郊名所めぐり」案内板が、10月10日（金）浅川ダム展望広場に設置されました。浅川地区の名所の案内のほか、浅川小学校の皆さんの絵をはじめ地域の皆さんのイベントの案内等の掲示ができるようになっています。浅川地区のPRに大いに寄与することが期待されます。



④ ブランド薬師（八櫛神社）社殿の修復工事が完了しました

長野市の文化財保護事業補助金の採択を受けて5月に着工したブランド薬師（八櫛神社）社殿の修復工事（拝殿、床、壁、腰板、天井）が8月10日に完了し、10月12日（日）には、秋の例大祭で社殿のお披露目がされました。歴代区長のほか245名に及ぶ区民や市内外の事業者の皆さんのご厚意が早期の修復につながり、文化財保護に対する地域の熱意の高さが感じられた事業でした。



⑤ 浅川産ワイン用ブドウの収穫とワインの販売が行われました

11月1日（土）、元地域おこし協力隊、宋裕光さんの圃場にボランティア総勢約30人が集結し、ワイン用ブドウ（シャルドネ）の収穫が行われました。宋さんからの説明を受けて、完熟したブドウの摘み取りと選別作業が効率よく進められ、共同作業の楽しさを分かち合った一日となりました。また、翌2日（日）の「浅川ゆうわ祭」では、初めての自家醸造のワインが販売されました。ファンの笑みが溢れる、ほほえましい光景でした。



⑥ 浅川地区防災訓練が実施されました

12月6日（土）、震度5強の地震発生の際の下、80名余が参集し、防災訓練が実施されました。本部設置や情報伝達訓練のほか、AR（拡張現実）機器を使用して煙火災の疑似避難訓練、AED操作訓練、炊き出し訓練も行われました。さらに、令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災し、現在も仮設住宅にお住いの従二恵二さんに、被災者として感じていることや伝えたいことを、現地から伝えていただきました。災害はいつ起こるかわかりません。日頃の備えの大切さを再認識した一日となりました。



共に生きる



たすけあい事業協力会員研修会を開催しました

地域たすけあい事業の協力会員が今年度2回目の研修会を行いました。

今回の研修では地域消防支援員の柄澤さんにご指導いただき、『119通報の方法』と『風呂敷を使った応急手当』を学びました。

ガス爆発・転倒による怪我を想定した通報をする訓練では、長野市消防局のご協力のもと実際の119番に電話をかけるデモンストレーションを行いました。訓練とわかっていても、119通報するのは緊張するものです。

応急手当の講習は、もしもの際に身近にあるものを使って処置ができる方法を教えていただきました。傷口に当たる風呂敷をできるだけ清潔に保つために空中でたたむ方法を練習しました。また、協力会員同士がペアになり、自身がたたんだ風呂敷で怪我部分を覆う方法を実践しました。



民生児童委員として21年間、その内15年間で浅川地区民生委員児童委員協議会会長としてご尽力くださった功績を称えられ、全国民生委員児童委員連合会より台ヶ窪区・徳竹貞夫さんに表彰状が贈られました。

また、民生委員および主任児童委員として社会福祉の増進のために6年間ご労苦くださった押田区・熊井芳美さん、屋敷田区・竹村けさ子さん、北郷区・宮澤さと子さんに厚生労働大臣より感謝状が贈られました。



ご協力ありがとうございます

浅川団地区にお住まいの方が地域たすけあい事業賛助会員になってくださいました。ご協力に感謝申し上げます。

地域たすけあい事業では、賛助会員を募集しています。1口1,000円からの地域支援です。いただいた会費は全額が浅川地区たすけあい事業の運営に使われます。

申込先：たすけあい事業コーディネーター 野口

☎263-3365 まで

浅川公民館長に赴任して



長野市立浅川公民館 館長 松木 久益

令和7年4月から宮下公民館長の後任として浅川公民館長を務めさせていただいております。私も浅川地区（北郷）の住民として、平素より地域の皆様にお世話になっておりますが、改めてご挨拶申し上げます。

公民館は地域の交流の場、学習の場であります。ますます元気な浅川地区を目指し、より一層浅川公民館をご利用いただけるよう努めるとともに、暮らしを豊かにする様々な講座を企画してまいりたいと思います。

浅川地区の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

「あさかわの里山と森を守る会」活動報告

あさかわの里山と森を守る会は、平成28年10月に設立した浅川地区住民を主体とするボランティア団体です。現在36名の会員が在籍し、浅川地区の里山環境の維持と保全を図るための整備活動に取り組んでいます。

浅川西条地区での秋の整備活動を10月8日～11月28日まで9回実施（延べ58人参加）しました。初日は進入路の草刈り・整備を行い、10月からは原木をチェーンソーで伐採し、ウインチで引き出し、玉切り（一定の寸法に切断）や玉出し（運び出し）の作業を行いました。

地権者の了解を得て伐採した一帯は視界が開け、日当たり良好な里山となりました。今後も里山の再生に向けた整備活動を継続します。

新規会員 募集中！

浅川の里山の整備活動を行っています。伐採の技術やノウハウを身につけたい方、里山の保全活動に興味のある方など、お気軽にお問い合わせください。

【問】あさかわの里山と森を守る会事務局（浅川支所 担当：羽深）TEL：241-3552

令和7年度 各種募金活動の集約結果

～みなさんの善意と
ご協力に感謝します！～

赤い羽根共同募金

1,417,760 円（昨年度1,389,080円）
（個人募金：1,249,260円、法人：168,500円）

※目標超過額は社会福祉事業のため地区に配分されます。

日赤活動資金 ・ 寄付金募金

※日本赤十字社で災害救護や講習会などの活動資金として活用されます。住民自治協議会に配分される事業費は地域福祉向上のため有効活用されています。

901,136 円（昨年度 934,880円）

広報委員から

12月6日の浅川地区防災訓練で、私は初めてAR（拡張現実）による消火と煙体験をしました。実物の消火器を使うよりゲーム感覚で気負うことなく消火ができたので、もっと多くの人に体験する機会があればと思っています。

AED訓練はいつも他人事のように受けていましたが、自分がされる側になるかと思い、家で抱き枕を使い家族に人工呼吸を強要。渋々従った彼らですが、私に見立てた枕に日頃の鬱憤を晴らしていたのかもしれない。

広報委員 滝澤 文子（教育文化部会・地公連総括）